

笹の墓標展示館再生・和解と平和の森を創る募金 よびかけ人

2020 年 4 月現在 （順不同・敬称略）

佐藤智眼（間光寺住職）池辺晋一郎（作曲家）徐勝（韓国又石大学校碩座教授）尹健次（神奈川大学名誉教授）室田元美（ルポライター）
テッサ・モリス＝スズキ（オーストラリア国立大学名誉教授）小野寺正巳（元拓殖大学北海道短期大学助教授）高橋哲哉（東京大学教授）
鄭炳浩（韓国漢陽大学校教授）朴善周（韓国忠北大学校名誉教授）鄭有盛（韓国西江大学校教授）徐相萬（Seo Han Internatinal社長）
柳錫津（韓国西江大学校教授）朴錫俊（SJ & Company社長）鄭泰春（歌手・作家）朴恩玉（歌手・作家）金運成（平和の少女像彫刻家）
金曙晃（平和の少女像彫刻家）鄭明禧（教師）ノーマ・フィールド（シカゴ大学名誉教授）河秀光（朝鮮人強制連行真相調査団事務局長）
富岡達彦（名寄市議会議員）岩崎泰好（美深町議会議員）蔡鴻哲（NPO法人東アジア市民ネットワーク副代表）宋基燦（立命館大学准教授）
崔善愛（ピアニスト）許仁碩（東アジア共同ワークショップ台湾）谷上隆（強制連行・強制労働犠牲者を考える北海道フォーラム事務局長）
金光敏（特定非営利活動法人コリアNGOセンター事務局長）姜守幸（東アジア共同ワークショップ関西）田中富士夫（笹の墓標展示館館長）
道又嘉織（東アジア共同ワークショップ関東）金英丸（韓国民族問題研究所対外協力室長）金倉泰賢（真宗大谷派宗会議員・高德寺住職）
鈴木君代（真宗大谷派僧侶・シンガーソングライター）小林千代美（NPO法人東アジア市民ネットワーク事務局長）宮川恵秀（秀法寺住職）
殿平善彦（NPO法人東アジア市民ネットワーク代表理事・一乗寺住職）安里英子（NPO法人沖縄恨之碑の会代表）末次和子（ベルリン女の会）
加藤多一（童話作家）星野孟（空知民衆史講座事務局長・金光教北海深川教会長）塚田タカヤ（フォークシンガー）菊池登（空知民衆史講座）
殿平真（たどし認定こども園かぜっこ園長）影山あさ子（ドキュメンタリー監督・森の映画社）藤本幸久（ドキュメンタリー監督・森の映画社）
葛野次雄（静内アイヌ協会会長）川村シンリツ・エオリバック・アイヌ（川村力子トアイヌ記念館長）森修覚（日本宗教者平和協議会事務局長）
李紅培（在日本朝鮮札幌商工会理事長）古賀清敬（北星学園大学教授）植村隆（韓国カトリック大学客員教授）小田博志（北海道大学教授）
堀川恵子（ノンフィクション作家）吉澤文寿（新潟国際情報大学教授）金賢泰（コリアNGOセンター）山階照雄（本願寺津村別院輪番）
小川隆吉（アイヌ民族エカシ）中川慎二（関西学院大学教授）伊藤多喜雄（民謡歌手）小林久公（強制動員真相究明ネットワーク事務局次長）
殿平有子（イラストレーター）吉川徹忍（広島宗教者平和協議会）小武正教（念仏者九条の会事務局長）浅野俊道（真宗大谷派樹教寺住職）
岡本法治（真宗学寮教授）中川功（オホーツク地域自治研究所理事）吉田邦彦（北海道大学教授）戸田輝夫（元北海道教育大学非常勤講師）
金正姫（川崎市民族ふれあい事業講師）林炳澤（日本の戦後責任を清算するため行動する北海道の会共同代表）笠嶋彰英（明光寺住職）
中野信之（NPO法人シュマリナイ湖ワールドセンター代表）結城佳子（名寄市立大学教授）佐々木光明（12・8戦禍を語り継ぐ会・浄土寺住職）
スーザン・メナデュエーション（立教大学研究員）朴大宇（北海道朝鮮初中高級学校校長）山崎龍明（武蔵野大学名誉教授・仏教タイムス社長）
築田哲雄（広島市法光寺住職）相馬述之（北海道宗教者平和協議会事務局長）伊藤恵夫（北海道AALA理事長）山崎忠司（空知民衆史講座）
長谷山隆博（芦別市 星の降る里百年記念館館長）井上薫（釧路短期大学教授）近藤伸生（あさひ岳法律事務所 弁護士）尹碧巖（国平寺住職）
池直美（北海道大学公共政策大学院専任講師）崔無碍（元暁宗和気山 統国寺住職）荒川庸生（日本宗教者平和協議会代表理事・長永寺住職）
小島良秀（曹洞宗秀岳寺住職）田中清元（曹洞宗宗会議員・薬王寺住職）池上恵龍（浄教寺住職）両瀬涉（真宗大谷派16組組長・好蔵寺住職）
國富敬二（WCRP日本委員会事務局長）飛田雄一（強制動員真相究明ネットワーク共同代表・神戸学生青年センター理事長）尹丁九（僧侶）
山本玉樹（北海道在日朝鮮人の人権を守る会代表）益子美登里（植村裁判を支える市民の会事務局次長）澁谷真明（真宗大谷派聖台寺住職）
森俊英（遺骨奉還宗教者市民連絡会事務局長・浄土宗正明寺住職）村中芳之（土別東高等学校教諭）森田敏春（東アジア市民ネットワーク）
竹本澄雄（美深町農業）円浄貴之（真宗大谷派澄心寺住職）植松誠（WCRP日本委員会理事長・日本聖公会首座主教）宮川秀憲（西英寺住職）
宮川証法（念仏者九条の会 北海道）

以下第2次よびかけ人：李起範（韓国・淑明女子大学教授）村本邦子（立命館大学教授）李洙任（龍谷大学 安重根東洋平和研究センター長）
小林知子（福岡教育大学教授）垣原典章（空知真宗教団連合理事長・清雲寺前住職）沖村民雄（高校生平和ゼミナール全国連絡センター）
佐々木あずさ（スクールカウンセラー）坂原英晃（広島東光坊住職）壹岐伸子（美術家）尾畑文正（同朋大学名誉教授）米本晃子（美深町民）
神沼公三郎（北海道大学名誉教授）川那辺康一（むくげの会神戸）森亮一（知床の歴史を語る会代表）佐藤明彦（北海道歴史教育者協議会）
堀口晃（藻岩犠牲者の碑を維持普及する会共同代表）石純姫（苫小牧駒澤大学客員教授）中田光信（日本製鉄元微用工裁判を支援する会）
高野和枝（鷹栖町たかの巣・ミセスおじさん）山崎敏勝（山岳ガイド）佐藤毅（北見から憲法を考える会代表）富盛保枝（ぐりんぴーす代表）
毛利悠（本願寺派関係学校同和教育推進委員長）久保寧男（中札内村・元教師）納村一男（一乗寺檀家総代長）由井数（劇団希望舞台代表）
井上洋子（長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会共同代表）藤田秀雄（立正大学名誉教授・平和の文化をさずく会代表）大原光夫（浄泉寺住職）
澤野重男（広島高校生平和ゼミナール世話人）徳村彰・杜紀子（森の子どもの村代表）杉山四郎（元札幌学院大学教授）内田可奈子（主婦）
結城章三（全日本年金者組合四條畷支部長）増岡敏三（憲法を守る室蘭地域ネット）中井信介（手わたしプレス・ドキュメンタリー映画監督）
藤井幸之助（「猪飼野セツパラム文庫」主宰）江連崇（名寄市立大学講師）加藤廣一（「真実と平和な世界を求めて」碑 移設実行委員会代表）
池田行信（浄土真宗本願寺派 慈願寺住職）山田智善（北海道旭川北高校数学講師）木村二三夫（平取「アイヌ遺骨」を考える会共同代表）
田中貴文（中国人強制連行・強制労働事件北海道訴訟弁護団事務局長）高賛佑（映画監督・ノンフィクション作家）外村大（東京大学教授）
奥田和浩（日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク共同代表）西千津（カトリック信者）梁川勝利（北海道「悪魔の飽食をうたう」合唱団団長）
谷内榮（北海道滝川平和遺族会会長・日本キリスト教会滝川教会員）橋本左内（牧師・元日本宗教者平和協議会理事長）井上真智子（主婦）
伊藤孝司（フォトジャーナリスト）石田明義（北海道平和委員会理事長・弁護士）金静媛（在日本朝鮮人総聯合会山口県本部国際統一部長）
菱木淳一（特別支援学校教員）ジョアキン・モンテイロ（ブラジル浄土真宗僧侶）氏家正実（市民と野党の共同をすすめる6区の会 共同代表）
波多野信子（ピアニスト）関良一（多度志住民）岡田正直（元市議会議員）嵯峨治彦（馬頭琴奏者）管幹雄（平和・国際教育研究会事務局長）
吉井健一（護憲ネットワーク北海道共同代表）趙博（芸人）西谷徳道（天徳寺住職）中山節夫（映画監督）松本ますみ（室蘭工業大学教授）
篠原宏明（喫茶ふれっぷ店主）朴権浩（北海道大学協力研究員）北名照美（深川市議会議員）青木勝美（NPO法人アートステージ空知理事長）
兎本道大（国民救援会北海道本部常任委員）小松豊（札幌郷土を掘る会代表）富田弘雄（平和と民主主義をすすめる深川懇話会代表）
長縄三郎（ジャーナリスト）平井敦子（北海道歴史教育者協議会）曹金時江（日本軍「慰安婦」問題の解決をめざす北海道の会共同代表）
松村高夫（中帰連平和記念館理事長・慶応大学名誉教授）具志堅隆松（沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表）金城実（彫刻家）
玄武岩（北海道大学教授）大町信也（日本聖公会司祭）

郵便振替（別紙専用振替用紙のほか、郵便局で 赤色 または 青色 の用紙をご利用下さい）

番号 02750-3-103422 名義 笹の墓標再生実行委員会
(ササノホ・ヒョウサイセイジ ヲウイシンカイ)

銀行振込（銀行・信金・外国送金、その他の金融機関から）

ゆうちょ銀行 店名 九七八 種別 普通 番号 1666384

クレジット決済 ウェブサイト sasanobohyo.com → 寄付する



笹の墓標展示館の敷地内にはツリーハウスやピザ窯も。集いの場として年中ご利用いただけます。



北海道・朱鞠内

戦時下の強制労働の歴史を伝える

倒壊した「笹の墓標展示館」の再生を！



「笹の墓標展示館」再生・和解と平和の森を創る

支援募金のよびかけ



強制労働の歴史を伝える

笹の墓標展示館再生・和解と平和の森を創る実行委員会

NPO 法人 東アジア市民ネットワーク

〒074-0141 北海道深川市多度志 630 一乗寺内

電話：0164-27-2359 Fax：0164-27-2890

Email: info@sasanobohyo.com

📍 笹の墓標展示館

📷 @sasanobohyo_museum

🏠 www.sasanobohyo.com

協力：強制連行・強制労働犠牲者を考える北海道フォーラム 社団法人 平和の踏み石 (평화디딤돌)

強制労働の歴史を伝える 笹の墓標展示館再生・和解と平和の森を創る活動へご協力をよびかけます

日本有数の豪雪・極寒の地、北海道朱鞠内（しゅまりない）に建つ旧光顕寺「強制労働資料館Ⅱ笹の墓標展示館」は、戦時下における強制労働犠牲者を弔い、その歴史を伝える建物として86年の風雪に耐えてきました。しかし、2019年2月、雪の重みにより傾き、2020年1月ついに倒壊に至りました。光顕寺本堂を利用し、1995年に開館した「強制労働資料館Ⅱ笹の墓標展示館」は主に次の役割を果たしてきました。

- 1 戦時下の朱鞠内で犠牲になった二百人を越える朝鮮人強制労働犠牲者、日本人「タコ部屋」労働者の追悼、発掘した遺骨をご遺族へ届ける営みの拠点。
- 2 朱鞠内をはじめ、北海道各地の強制労働犠牲者の遺骨発掘の歴史を保存・展示する歴史資料館。
- 3 東アジア共同ワークショップに集う日本、韓国、在日コリアン、台湾、アイヌや高校生、市民など、民族や世代、国境を越えた人々の学習・交流の場。

展示館が伝えてきたのは、過去の戦争と植民地支配による強制労働によって奪われたいのちの歴史です。来館する人々はこの場が日本の加害の歴史を心に刻み、死者を追悼し、東アジアに和解と平和を育てる場であることに気づくでしょう。日本社会は今日に至っても戦時下の歴史が残した課題を解決できず、近年、強制労働の歴史を否定する論調が目立ち、露骨なヘイトや差別が横行するようになりました。今日に至っても強制労働の過去を克服することは未完の課題です。

ドイツがナチスドイツの強制労働を戦後補償の課題として認め「記憶・責任・未来」基金を創設したのは2000年になってからです。日韓間の懸案である「徴用工」問題も、資料館が展示してきた歴史に学び、犠牲者を思う人々の共同のあゆみが解決の道を指し示すでしょう。

私たちは、再び過ちを繰り返そうとする動きに抗し、今こそ東アジアの和解と平和に市民のイニシアチブを発揮したいと願います。強制労働資料館Ⅱ笹の墓標展示館を再生し、展示館の庭に犠牲者を追悼する碑や記念像を建立して、和解と平和の森を創りたい。

「強制労働資料館Ⅱ笹の墓標展示館再生」と「和解と平和の森を創る」ための募金を心から訴えます。

募金の呼びかけ

共同代表 殿平善彦 田中富士夫



歴史的建造物である旧光顕寺は戦前・戦中の強制労働による死者を弔い位牌を安置してきました。解体再生される建物は歴史を伝える展示館としての役割を充実させると共に東アジアの人々の出会いと共同の学びの場となります。

左：雨竜ダム（朱鞠内湖）の建設現場。過酷な労働を強いられたタコ部屋・強制労働者たちの多くはふるさとに帰ることはなかった。

右：在りし日の旧光顕寺・笹の墓標展示館。

旧光顕寺・笹の墓標展示館のあゆみ

1913年	朱鞠内旧御料地に岐阜などから団体入植はじまる
1934年	現在地に光顕寺本堂（間口6間）建立
1935年	名雨線鉄道工事（名寄＝朱鞠内）着工 この年から鉄道・ダム工事に関連する死者が急増
1938年	雨竜ダム起工式
1942年	統計上の移入朝鮮人数3000人にのぼる
1943年	雨竜ダム完成、東洋一のダムと称される 犠牲者日本人約200人、朝鮮人約50人
1976年9月	本堂裏から犠牲者名が記された位牌80基余を発見
1980年5月	共同墓地裏の笹藪を発掘、遺骨が多数出土 以後、84年までに16体を発掘、寺に安置
1995年9月	JR 深名線廃止 「旧光顕寺・笹の墓標展示館」開設
1997年8月	日韓共同ワークショップ（参加250人）共同墓地を発掘
1998年2月	冬の雪下ろしワークショップはじまる
2001年8月	東アジア共同ワークショップ（参加200人）により再度、共同墓地周辺を発掘。発掘現場に追悼碑・墳墓を造成
2015年9月	「70年ぶりの里帰り」北海道で犠牲になった朝鮮半島出身者の遺骨115体を韓国に奉還
2019年2月	積雪被害により本堂が大きく傾き、解体・再生を決意
2020年1月	笹の墓標展示館が完全に倒壊



1980年5月に共同墓地裏で発掘された遺骨。犠牲者の遺骨は熊笹の地下1メートル以上も深い地中から掘り出されました。木の根がからまる頭蓋骨が虚空をにらみまわす。



1997年夏より強制労働犠牲者の遺骨を共同で発掘するワークショップが開催されてきました。これまでに発掘した遺骨の追悼、返還のための活動は現在も継続しています。



毎冬、展示館の屋根に積もる雪を下るしに人々が集まってきました。これまで2000人以上の世界の人々が集い、戦争と植民地支配の歴史を学びながら、共に未来を語りあってきました。

募金目標額 3,000 万円

再生事業 2022 年 秋 完成予定



笹の墓標展示館再生 2,300 万円
ご遺骨の納骨堂・礼拝空間として再建・整備
史料展示の充実化・東アジア市民交流拠点



旧光顕寺庫裏の改修 300 万円
滞在・宿泊拠点として再整備 建物躯体の改修
東アジア近現代史のグローバル情報発信拠点



和解と平和の森整備 300 万円
史跡案内・ガイド掲示の整備 願いの像移設
草地・共同墓地整備 新たなシンボルの建立



宣伝広報・事務活動費 100 万円
募金よびかけパンフレット作成・全国発送費
和解と平和の森の広報PR活動・事務諸経費



おもな活動内容 再生のための募金よびかけ クラウドファンディング 戦時下強制労働史料の全国巡回展 ドキュメンタリー映画上映 建物・和解の森設計プラン公募 など

笹の墓標展示館とは？

強制労働の史実を伝える貴重な遺品・史料を展示 ～ 学びの場



展示館に安置されている強制労働の死者の位牌。

世界的にも数少ない戦争・植民地支配下のタコ部屋労働、朝鮮人強制労働の史実を伝える歴史資料館として、これまで多くの東アジア市民の来館と、中高生、大学生の学習と合宿の場所としても活用されてきました。現在、収蔵する遺品や史料は事務局が保管し、再び来館者を迎えるのを待っています。目下、展示物を整理し、全国巡回展の準備をすすめています。



左：1944年昭和炭鉱で犠牲になった朝鮮人男性の遺骨が納められていた骨箱。沼田町の寺院に預けられてきたが2014年に娘さんが遺骨を引き取った。 右：笹の墓標展示館の展示パネルの一部。



旧光顕寺の境内に建つ追悼碑・彫刻像 ～ 追悼と記憶の継承



「記憶・継承」旧日本陸軍浅茅野飛行場建設工事犠牲者追悼碑

アイヌモシリ・北海道の雄大な自然に囲まれた朱鞠内には、豊かな自然の影に「開拓」によって造られたダムと工事に従事させられた人々の歴史が刻まれています。旧光顕寺をかこむ森に置かれた追悼碑・像を中心として「和解と平和の森」を整備し、東アジアの人々がつどい、交流する場を創造していきます。



生命の尊さにめざめ民族の和解と友好を願う像（本田明二 遺作・近藤泉 作）



朱鞠内で犠牲になったすべての犠牲者の名前が刻まれている「平和の踏み石」（평화디딤돌）



遺骨発掘現場（朱鞠内共同墓地）に創られた朝鮮式の土饅頭の墓と追悼碑